

次期習志野市文化振興計画の策定に関するアンケートの結果報告

市民アンケート結果概要

I. 文化・スポーツに関する市民アンケート

(1) 調査概要

①調査対象 令和 6 年 4 月 19 日現在 市内在住の満 19 歳以上の男女

②標本数 3,000 件(男性 1,500 件、女性 1,500 件)

男女それぞれ、住民基本台帳から以下の要件で抽出。

年齢層	生年月日	合計	回答数
19歳～29歳	2005(平成17)4月1日～1994(平成6)年4月2日	850	120
30歳～39歳	1994(平成6)年4月1日～1984(昭和59年)年4月2日	700	197
40歳～49歳	1984(昭和59)年4月1日～1974(昭和49)年4月2日	550	190
50歳～59歳	1974(昭和49)年4月1日～1964(昭和39)年4月2日	400	146
60歳～89歳	1964(昭和39)年4月1日～1934(昭和9)年4月2日	500	219
年齢回答なし			14
※令和6年4月1日現在の年齢		3,000	886

③調査期間 令和 6 年 5 月 10 日(金)～6 月 14 日(金)

④回収数等

配布数	回収数	回収率
3,000 件	886 件	29.5%

II. 令和6年度文化に関する市立小中高生アンケート

(1) 調査概要

①調査対象 令和 6 年 5 月 1 日現在 市内市立小学校・中学校・高校に通学する子ども

②標本数 3,138 件(小学校 6 年生、中学校 2 年生、高校 2 年生)

③調査期間 令和 6 年 6 月 3 日(月)～6 月 20 日(木)

④回収数等

配布数	回収数	回収率
3,138 件	2,190件	69.8%

Ⅲ. 文化芸術活動に関するアンケート

(1) 調査概要

①調査対象 文化芸術活動を実践している習志野市芸術文化協会の加盟団体

※各分野で運営委員をしている代表団体に回答を依頼。

②標本数 最大25団体

③調査期間 令和 6 年8月20日(火)～9月13日(金)

④回収数等

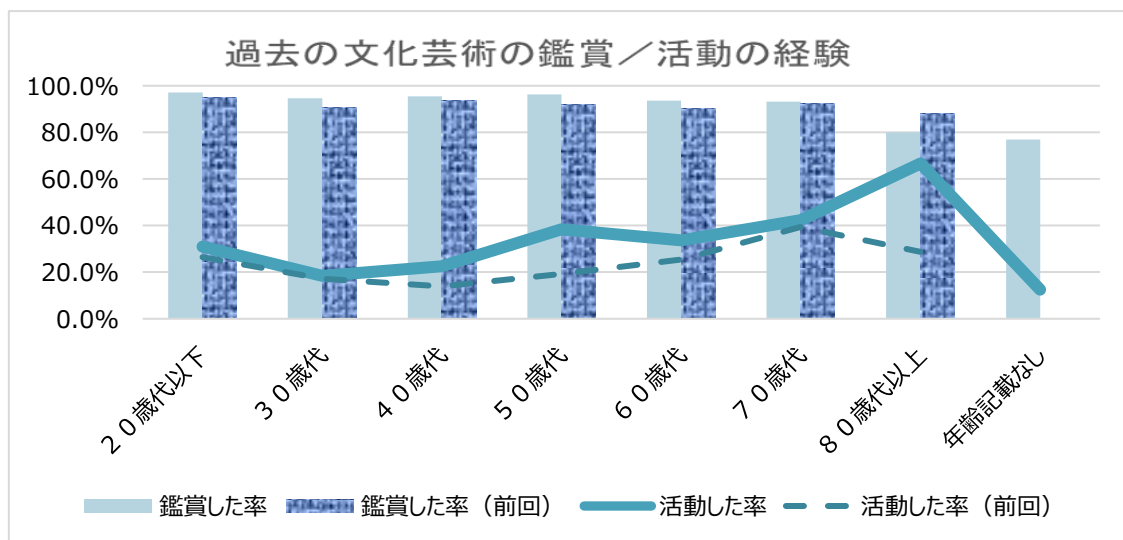
配布数	回収数	回収率
25件	17件	68.0%

I <文化に関する市民アンケート結果概要>

1. 過去の文化芸術の鑑賞／活動の経験

過去1年間に文化芸術の鑑賞／活動を行ったか。

(映画、クラシック音楽、ポップス、純邦楽、美術、歴史的建物や展示の鑑賞、演劇、洋舞、芸能、文学、伝統芸能、地域の伝統的な行事や慣習、生活文化、国民娯楽 等)



N=886 (前回 N=1,047)

- 前回の調査「習志野市文化振興に関する市民意識調査」(令和元年 11 月)と比較すると、鑑賞・活動ともに過去一年間に経験したと回答した件数は、80歳代以上を除き前回調査の割合を上回った。「鑑賞した件数」は 85.2%と前回調査の 84.8%から 0.4 ポイントの増とほぼ横ばいとなっている。
- 「活動した件数」については 30 代が落ち込んでおり、50 代に向けて上昇するものの 60 代で若干減少し、その後上昇していく傾向がある。前回調査との比較においては、前回の 23.5% に対し、今回は 26.1%と、2.6 ポイント増加している。

1-1 (何も鑑賞していない理由)【過去 1 年間に何も鑑賞していない方のみ対象】(複数回答)

項目		件数(件)	構成比(%)	前回 件数(件)	前回 構成比 (%)
1	入場券などが入手しづらい	18	13.7%	7	5.7%
2	情報が入手しづらい	35	26.7%	30	24.6%
3	興味のある催し物が少ない	68	51.9%	29	23.8%
4	仕事や生活が忙しく時間がない	74	56.5%	61	50.0%
5	一緒に鑑賞する仲間がいない	16	12.2%	16	13.1%
6	催し物の開催期間・時間が合わない	20	15.3%	13	10.7%
7	自宅のテレビやパソコンなどで鑑賞すれば十分だ	45	34.4%	28	23.0%
8	託児サービスや、小さな子どもと出かける設備が整っていない	14	10.7%	9	7.4%
9	エレベーターやスロープ、車椅子席等の設備が整っていない	2	1.5%	3	2.5%
10	その他(自由記入)	18	13.7%	27	22.1%
11	不明・無回答	0	0.0%	2	1.6%

n=131 (前回 n=122)

- 「仕事や生活が忙しく時間がない」が 56.5%、続いて「興味のある催し物が少ない」が 51.9%、「自宅のテレビやパソコンなどで鑑賞すれば十分だ」が 34.4%となっている。
「仕事や生活が忙しく時間がない」が前回調査から 6.5 ポイント増加し、最も多いことは変わらないものの、「自宅のテレビやパソコンなどで鑑賞すれば十分だ」が前回から 11.4 ポイントと大きく上昇している。このことについてはコロナ禍のステイホームの影響で、パソコンやスマートフォンで動画等を鑑賞する機会が増えたことや IT 化が進み、情報の入手が容易になったことが一因と考えられる。

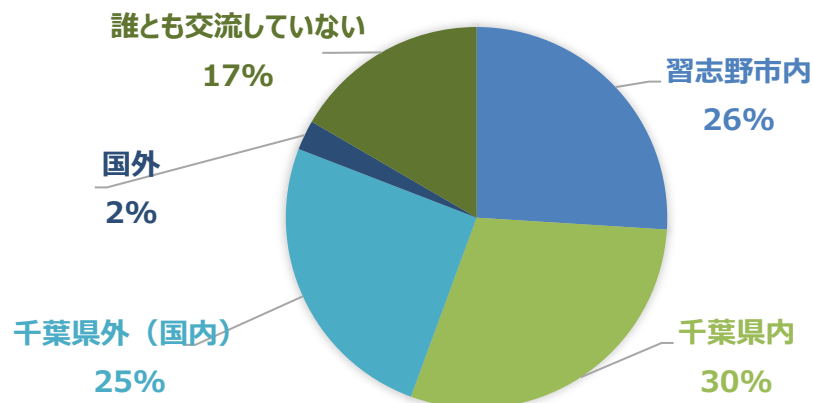
1-2(何も活動していない理由)【過去 1 年間に何も活動を行わなかった方のみ対象】(複数回答)

項目	件数(件)	構成比(%)	前回 件数(件)	前回 構成比 (%)
1 活動に関する情報が少ない	85	13.0%	114	15.2%
2 練習や発表をする適当な場所がない	31	4.7%	35	4.7%
3 仕事や生活が忙しく時間がない	329	50.3%	386	51.5%
4 自分が活動することに興味がない	176	26.9%	170	22.7%
5 託児サービスや、小さな子どもと出かける設備が整っていない	31	4.7%	22	2.9%
6 エレベーターやスロープなど、設備が整っていない	5	0.8%	5	0.7%
7 スポーツ活動をメインに取り組んでいる	71	10.9%	100	13.3%
8 続ける自信がない	95	14.5%	120	16.0%
9 一緒に活動する仲間がいない	91	13.9%	107	14.3%
10 興味があるものがない	144	22.0%	180	24.0%
11 その他(自由記入)	32	4.9%	44	5.9%
12 不明・無回答	0	0.0%	9	1.2%

n=654(前回 n=750)

- 「仕事や生活が忙しく時間がない」が 50.3%と最も多い。続いて「自分が活動することに興味がない」が 26.9%、「興味があるものがない」が 22.0%となっている。活動しない理由は、前回調査と同じ内容が上位となった。

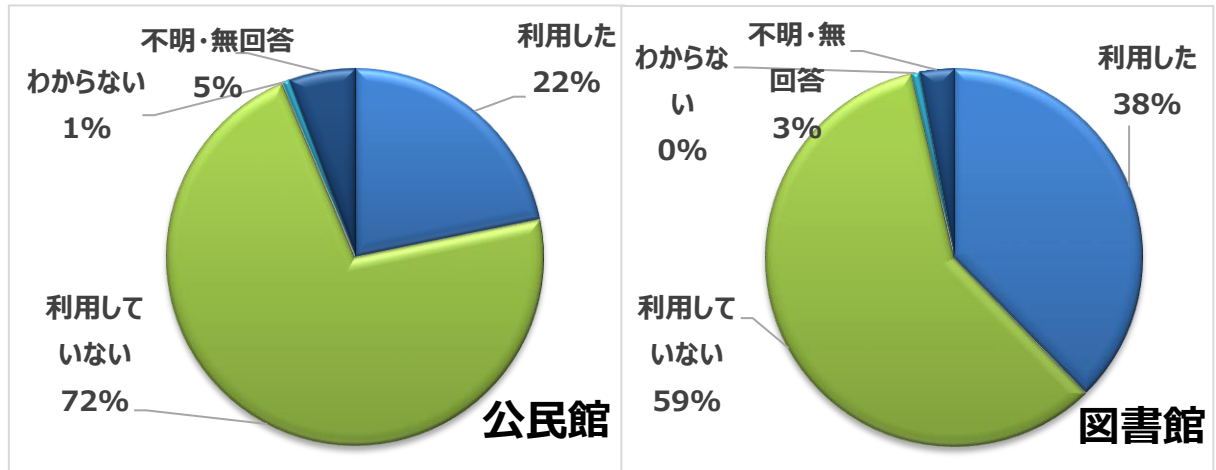
1-3(活動を通して交流した方の居住地)【過去 1 年間活動を行った方のみ対象】(複数回答)



n=232

- 市内・県内での交流が半数以上を占めているが、県外(国内)・国外も一定数いることがわかった。誰とも交流していない活動の主なジャンルとしては、「生活文化」や「美術」等。また、国外の方との交流の主なジャンルは、クラシック音楽やポップス等の「音楽」、「美術」や「文学」の他、「生活文化」、「アニメーションの制作」等もあった。

2. 過去 1 年間の公民館・図書館の利用 (%)



どのようにであれば公民館を利用するか		件数(件)	構成比(%)
1	興味のある講座、イベント、公演、展覧会等が行われている(具体的に記入)	123	19.1%
2	自分がやってみたいことを教わったり、体験することができる(具体的に記入)	113	17.6%
3	世代や地域を超えた交流ができる	41	6.4%
4	利用方法がわかりやすい	192	29.9%
5	気軽に立ち寄れて、自由に集まることのできる場所がある	226	35.1%
6	学習スペースがある	89	13.8%
7	音楽、演劇、ダンスなどの練習や美術の作品制作等に必要な設備や備品が整っている	34	5.3%
8	その他(自由記入)	79	12.3%

n=643

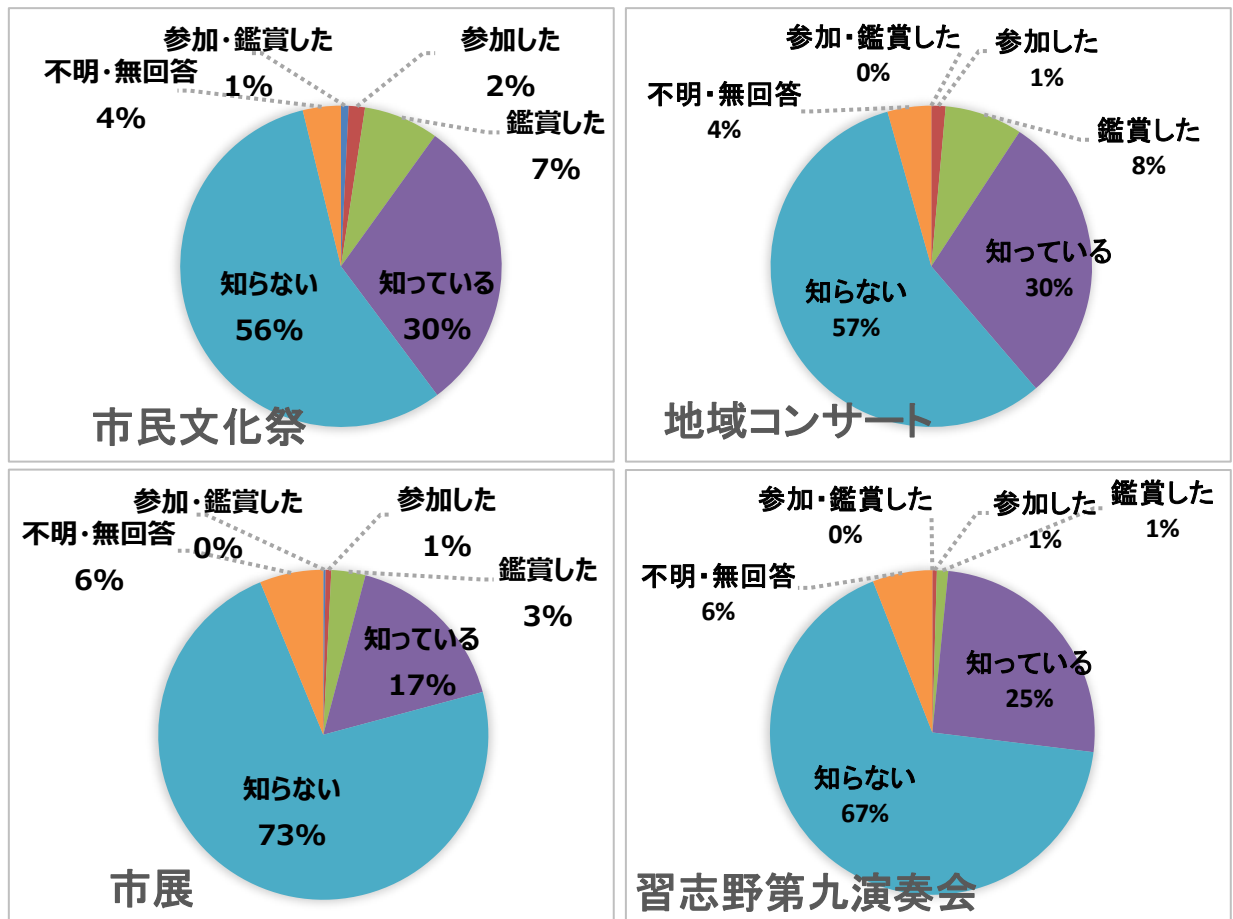
どのようにであれば図書館を利用するか		件数(件)	構成比(%)
1	読みたい・必要な本、CDやDVDがそろっている	249	47.3%
2	家の近くで本を受け取れるサービスがある	116	22.1%
3	図書館が夜遅くまで開いている	135	25.7%
4	どんな本やCD・DVD等があるのかインターネット等ですぐにわかる	159	30.2%
5	学習スペースがある	65	12.4%
6	利用方法がわかりやすい	101	19.2%
7	その他(自由記入)	74	14.1%

n=526

- 公民館を「利用した」は約2割、「利用していない」は約7割となっている。
- 図書館を「利用した」は約4割、「利用していない」は約6割となっている。
- それぞれの施設で「利用していない・わからない」と回答した方にどのようにであれば利用するかを問う設問について、公民館は、「気軽に立ち寄れて、自由に集まることのできる場所がある」35.1%、「利用方法がわかりやすい」29.9%、「興味のある講座、イベント、公演、展覧会等が行われている」19.1%が上位となっている。

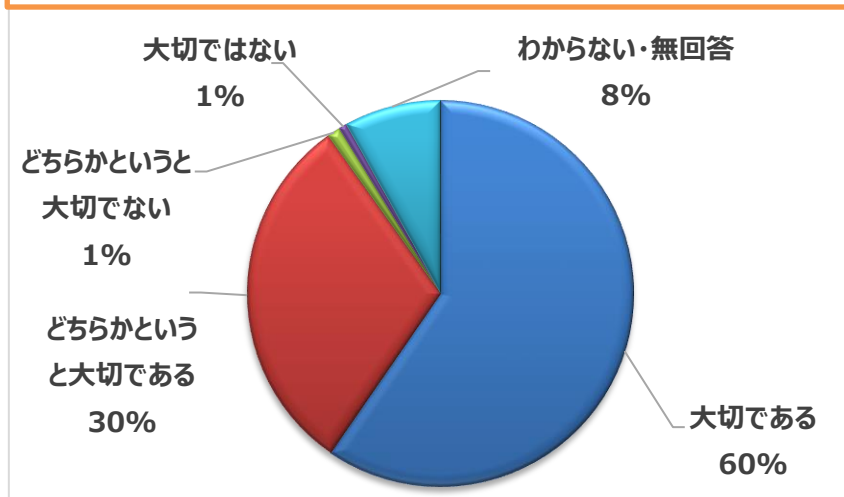
また、図書館では、「読みたい・必要な本、CDやDVDがそろっている」47.3%、「どんな本やCD・DVD等があるのかインターネット等ですぐにわかる」30.2%、「図書館が夜遅くまで開いている」25.7%が上位に上がっており、両施設とも講座や資料の質の高さの他にわかりやすい利用方法や施設の建物・レイアウトについてのニーズも一定程度挙げられている。

3. イベントの認知度と参加・鑑賞経験(%)



- 市教育委員会が共催・後援する行事は、いずれも参加・鑑賞・認知度とも低い傾向にある。
またこれらの行事を「知っている」と回答する割合を年代別で見ると、どの行事も40代以上から増える傾向にある。認知度の向上を図るとともに参加や鑑賞につなげられるような取り組みが必要と考えられる。

4-1. 文化財を保存・活用することの大切さ(%)



4-2. 文化財を保存・活用することが大切だと思う理由(複数回答)

【文化財を保存・活用することが「大切である」「どちらかという大切である」と回答した方のみ対象】

項目		件数(件)	構成比(%)
1	歴史的な事実を伝えるものとして価値があるから	618	77.3%
2	失うと二度と戻らない唯一無二のものであるから	497	62.2%
3	昔から伝わってきたもので、未来に受け継ぐべきであるから	392	49.1%
4	地域に親しまれているから	35	4.4%
5	地域の魅力につながるから	165	20.7%
6	観光資源となるから	92	11.5%
7	文化財を通じて人々の交流が生まれるから	45	5.6%
8	その他(自由記入)	7	0.9%

n=799

- 文化財を保存・活用することの大切さについて、約9割が「大切である」、「どちらかという大切である」と回答しており、主な理由としては「歴史的な事実を伝えるものとして価値があるから(77.3%)」、「失うと二度と戻らない唯一無二のものであるから(62.2%)」、「昔から伝わってきたもので、未来に受け継ぐべきであるから(49.1%)」の順となっている。

5. 今後力を入れたらよいと思う文化芸術の取り組み(複数回答)

項目		件数(件)	構成比(%)
1	未就学児を対象とした文化芸術事業	176	19.9%
2	小中高生が様々なジャンルの文化芸術に触れる機会の提供	363	41.0%
3	誰もが利用しやすいホールや劇場の整備	419	47.3%
4	文化芸術活動を支援する人材の育成	116	13.1%
5	文化財の保存・活用	120	13.5%
6	地域の身近な場所で美術品や歴史的展示を鑑賞出来る取組	158	17.8%
7	文化芸術活動を紹介する情報発信	173	19.5%
8	文化芸術活動へ気軽に参加・体験できる機会を定期的に行う事業	197	22.2%
9	市民の文化芸術活動の発表や創作の場、及び文化芸術を通じた交流の場の提供	63	7.1%
10	その他(自由記入)	39	4.4%

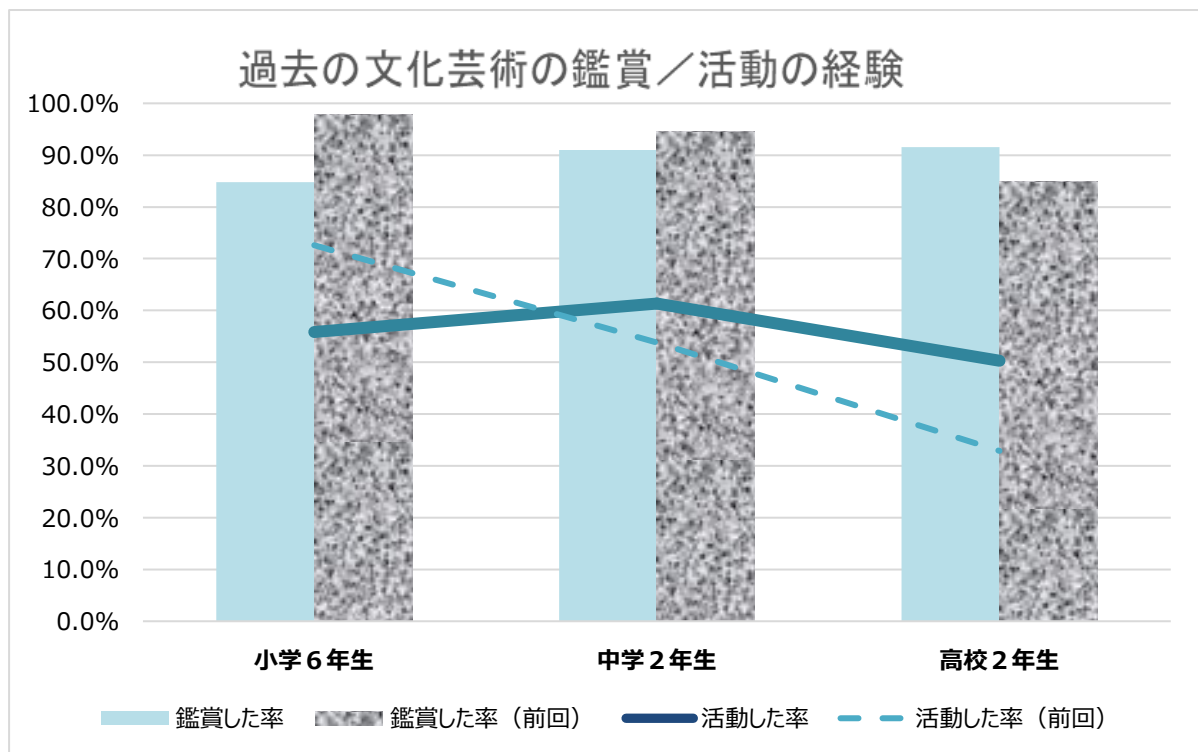
- 習志野文化ホールが閉館し、新ホールの建設が待たれる中、「誰も利用しやすいホールや劇場の整備(47.3%)」、「小中高生が様々なジャンルの文化芸術に触れる機会の提供(41.0%)」が約半数を占めている。

Ⅱ＜令和 6 年度文化に関する市立小中高生アンケート結果概要＞

(市立小・中・高生) 過去 3 年間の文化芸術の鑑賞／活動の経験

過去 3 年間に文化芸術の鑑賞／活動を行ったか。

(映画、音楽、日本の伝統音楽、美術、歴史的建物や遺跡、演劇、洋舞、演芸、文学、日本の伝統芸能、地域の伝統的な行事や慣習、生活文化、国民娯楽 等)

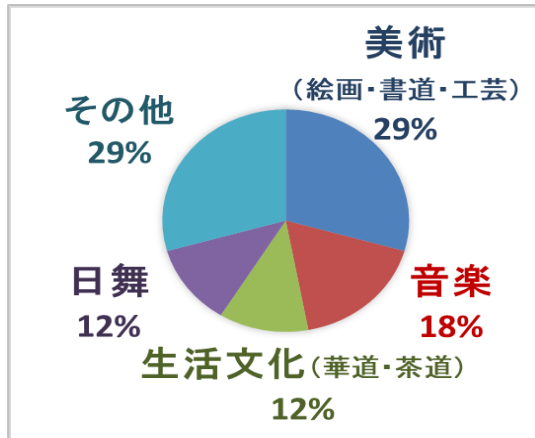


N=2,190(前回 N=1,031)

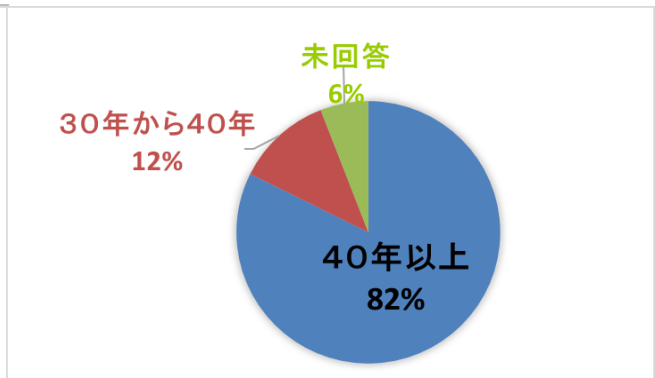
- 鑑賞は、小学生・中学生は前回調査の割合を下回ったが、高校生は前回調査を上回った。
- 活動は、小学生以外は前回は上回った。前回調査では、鑑賞・活動とも学年が上がるに連れ下がる傾向であったが、今回は「コロナ禍」の時期と重なるため、年代が低い程行動制限等から受けた影響が大きいと考えられる。
- 鑑賞した主なジャンルは、「映画」、「音楽(クラシックやポップス等)」、「美術」の順に多い。また、活動は、「音楽(クラシックやポップス等)」、「美術」等が多いが、電子機器を利用した「映像制作」等も上位に入っている。

Ⅲ＜文化芸術活動に関するアンケート＞ N=17

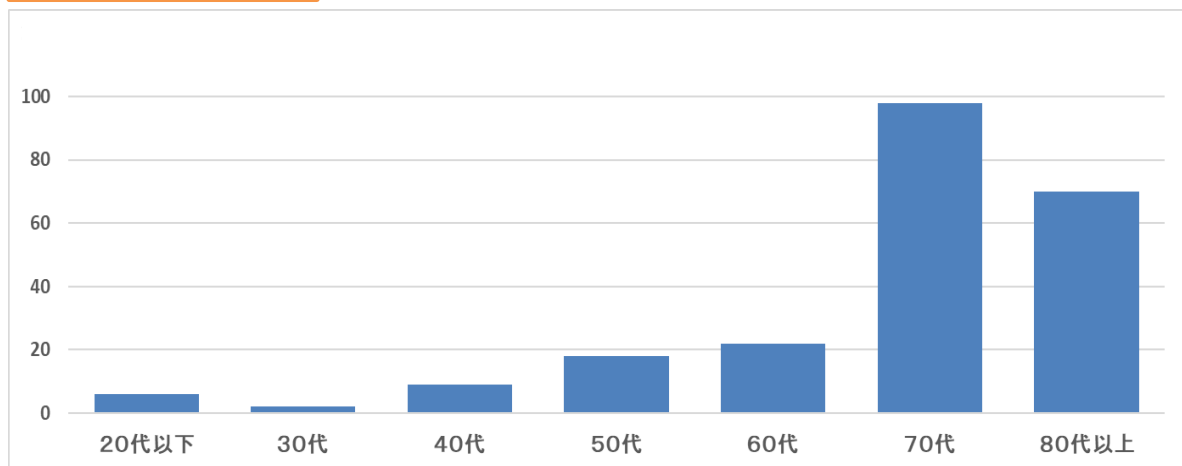
1. 活動分野



2. 活動年数

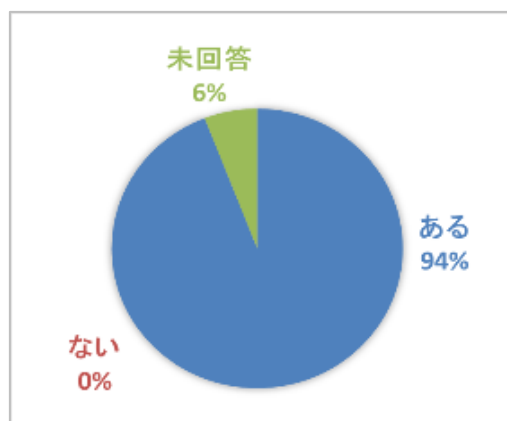


3. 会員構成の年代(人) n=225

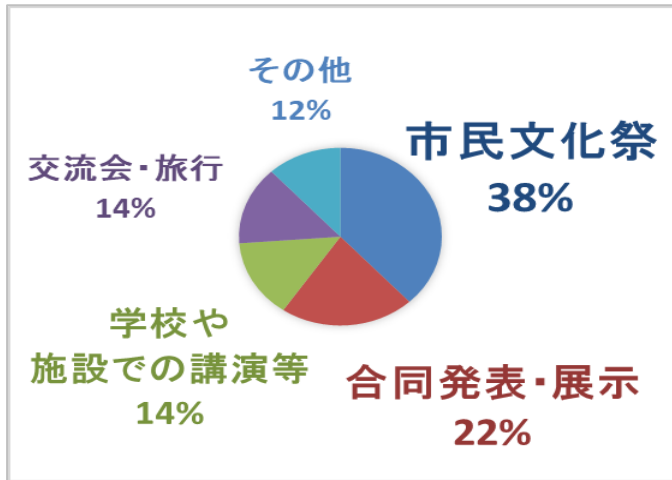


- 団体の活動年数は、82%が40年以上になる。
- 70代以上の会員が74%を占めている。

4-1. 他団体との交流の有無



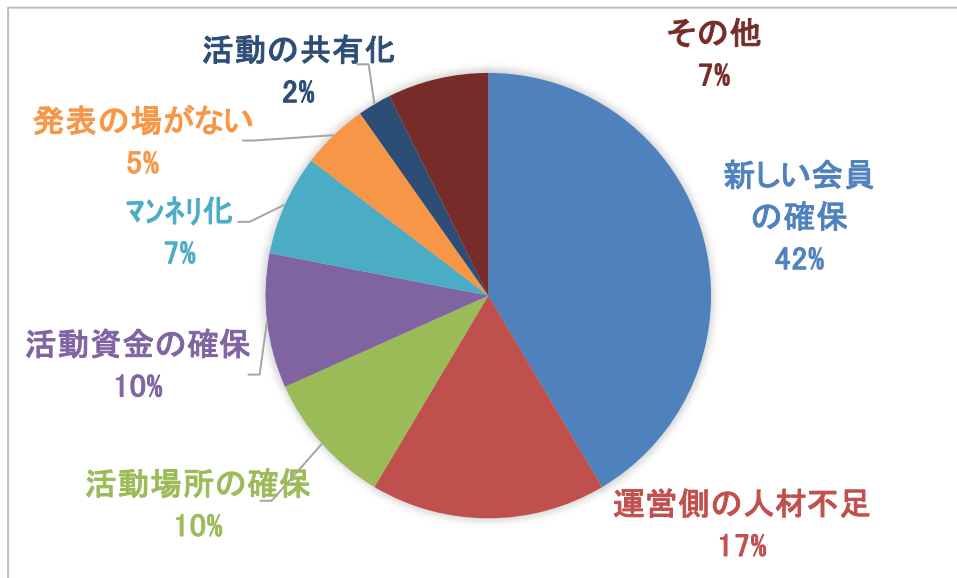
4-2.どのような交流をしたか



- 他団体との交流は、94%と活発である。

内容は、「市民文化祭」38%、「合同発表・展示」22%と団体の枠を超えた文化活動を行っている。市民文化祭は、団体同士の交流機会の場となっている。

5.困っていること



- 「新しい会員の確保」42%、「運営側の人材不足」17%と新規会員や新たな担い手を必要とする悩みが半数を超えている。新しい人材が団体に入るためのきっかけづくりなど活動の PR を含めた取り組みが必要である。